



すっかり朝晩の寒さが身に染みる季節になりましたね。そんな中、やるしょ課では、札幌の歴史的建造物の模型展に出掛けました。

作者が、豊平館の美しさに魅せられて建物の模型作りを手掛けて30年余り100点以上の作品を作り続けています。その中から15点の札幌の古い建造物が展示されるとのこと、一度にそれらの鑑賞が出来るのも模型展ならではの生憎の雨模様でしたが札幌市資料館まで足を運びました。



1888年アメリカ風ネオバロック様式、旧北海道本庁舎

仕事の合間毎日2時間  
4ヶ月位かかったそう

初日に鑑賞していたところ、幸運にも作者の方と遭遇し、身近な木材や薄皮を使った事や細かい作業のご苦労などのお話も聞くことができました。写真では伝わりづらいですが、一つ一つが大変精巧、緻密に出来ており、30年余りに作った豊平館も少しも色褪せる事なく保存されていました。



1878年旧札幌農学校演舞場



1880年旧永山武四郎邸  
(2代北海道長官)



1880年北海道開拓使が建てた洋式ホテル 当初北1西1にあった



旧黒岩家住宅  
(旧簾舞通行屋)

開拓使が主要道路の要所として設置した施設で旅行者や開拓者の宿泊所として利用され、現在では最古の開拓農家開拓使初期の家屋構造を伝える貴重な遺構である。

右から2番目の方が作者の佐々木さん。本業は理容師だそう

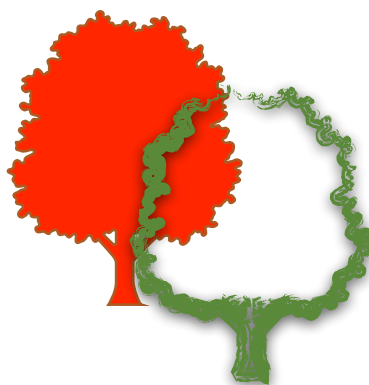


1881年清華亭 札幌で最初の公園偕楽園内に貴賓接待所として建てられた

模型展の見学後、現存する旧永山邸（北2東6：ファクトリー隣接）にも足をのびしました。

永山武四郎は薩摩出身で、1872年に開拓使に出仕し、1878年に屯田事務局長となり屯田兵設置に尽力し「屯田兵の父」と言われています。1888年に第2代北海道庁長官になり開拓、発展に尽くしました。議会のため上京中病に倒れ生涯を閉じましたが、「死後我が身を札幌に埋めよ、死して尚北方を守らん」との遺言を残し札幌の豊平墓地に埋葬されました。

旧永山武四郎邸は1877年代前半屯田兵事務長時代の武四郎が私邸として建築され当時の上流住宅の家屋の洋式がよく見られます。1911年三菱合資会社を買収され同社の北海道における炭鉱事業調査や企業準備の拠点として使用されました。



旧永山邸の敷地には二つの建物があり左側の白い建物が旧三菱鉱業寮です。北海道に数少ないクラブハウスとして使われた建物の名残が、電話室、ホール、部屋番号札などに見られます。2019年9月国登録有形文化財に選定されました。



永山邸の後はみんなで久しぶりのランチ、ソラリア西鉄ホテルを紹介してくれた菅原さんも用事を済ませて合流、感染対策の上、ブッフェを堪能しました。昔のKKRからすっかりお洒落なホテルに改装され、大きな南側の窓からは道庁旧本庁舎庭園を臨む事ができ、雨に濡れた落ちゆく紅葉もまた晩秋を感じさせてくれました。

冷たい雨にさらされつつも参加したみんなは札幌のちょっとした歴史と満腹のお腹をかかえて帰りました。

尚、歴史建造物模型展は札幌市資料館（大通り13丁目）にて、7日まで開催しています。お時間のある方はぜひいらしてみても？